

# 国立歴史民俗博物館総合展示 第1室(原始・古代)の新構築事業 2016年度活動報告

Renovation Project of the Permanent Exhibition Gallery One (Prehistoric and Early Japan)  
of the National Museum of Japanese History : FY 2016 Activity Report  
KAMI Naomi and YOKOTA Ayumi

上 奈穂美・横田あゆみ

## はじめに

本稿では、2019年度末のリニューアルオープンを目指し準備を進めている総合展示第1室新構築事業（以下、第1室リニューアルと表記）について、2016年度の活動内容を報告する。最初に、展示構成や展示リニューアル委員会会議の概要などを含めた第1室リニューアルの準備状況をまとめておく。また、前稿〔渋谷2014、渋谷・大塚2015、渋谷・上2016、渋谷・上2017〕と同様に、展示予定資料の制作についても触れておきたい。

## 1. 第1室リニューアルの展示構成と実施設計の改訂

展示構成は第I期展示の課題を踏まえて考案・改訂されてきている〔大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館2004、前掲2014、2015、2016、2017〕。現時点での各テーマの展示構成を表1に示す。

前年度に完成した実施設計に基づき施工業者との打合せを通じて、既存大型模型の移動による資料破壊の恐れなどの問題が浮上したため、展示リニューアル委員会の館内委員会議で検討した上で設計を改めた箇所も含まれている（図1）。

## 2. 2016年度の活動概要

### 2016年度前半—工事業者の入札、工事業者とのヒアリング、閉室、展示資料の記録・撤収

前年度に行った実施設計図および各テーマの諸費用、展示工事費用の再検討の結果についてリニューアル運営会議に諮り、館内全体の同意を得た。その内容をもとに入札を行い、工事業者を（株）乃村工藝社に確定した。ヒアリングでは工事業者と展示担当者との間で展示内容の共通認識を図り、具体的な工事内容や作業の見通しを検討した。工期は2016年8月～2018年7月を予定している。

展示工事に先立って5月に第1展示室を閉じ、室内の記録写真および映像を撮影した。その後資料係と調整した日程や手順にもとづき資料の撤収作業を行った。

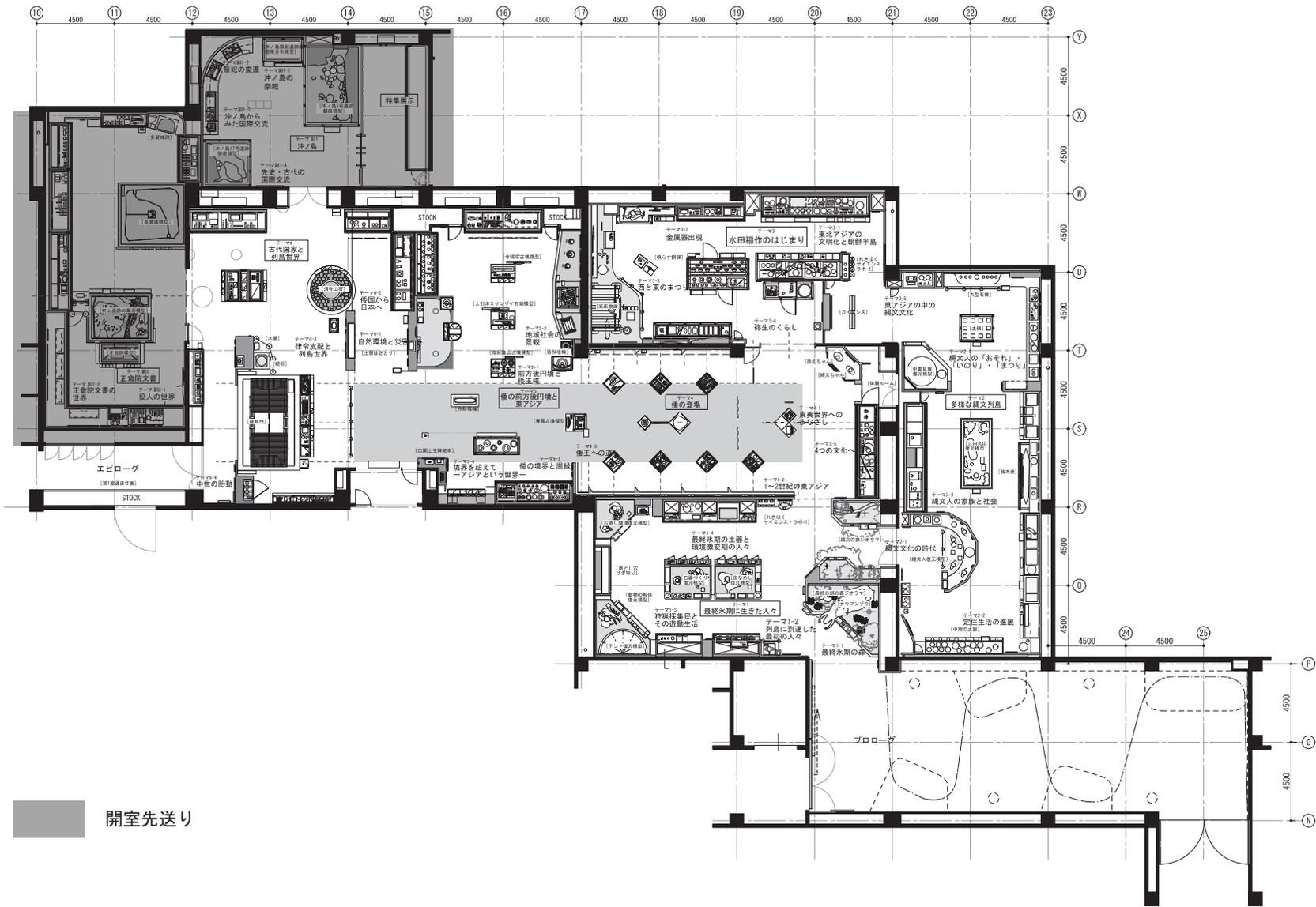


表1 リニューアル後の展示テーマ構成

**I 最終氷期に生きた人々**

プロローグ 最終氷期の地球とホモ・サピエンスの拡散	
1 最終氷期の森	① 最終氷期の森
2 列島に到達した最初の人々	② 現代人的行動ってなに!?
	③ 人はいつ列島に渡ってきたのか
	④ 列島最初の人々が残したもの
	⑤ 環状のキャンプに集う
3 狩猟採集民とその遊動生活	⑥ 寒冷環境への適応
	⑦ 石器を作る
	⑧ 遊動生活と住居
	⑨ 良質の石材を求めて
	⑩ 大陸との関係
	⑪ 動物の狩猟と食料
	⑫ 旧石器時代の落とし穴
	⑬ 植物質の食料の利用
	⑭ 祈りとアクセサリー
4 最終氷期の土器と環境激変期の人々	⑮ 東アジアの土器の出現
	⑯ 土器文化の急速な広がり
	⑰ 定住的な生活の始まり
	⑱ 狩猟具の変化と弓矢の登場
	⑲ 南九州の集落と植物利用
	⑳ 石偶と日本最古の土偶
[コラム] れきはくサイエンス・ラボ	拡大してみる

**II 多様な縄文列島**

1 縄文文化の時代	① 縄文文化の環境
	② 縄文人登場
	③ 縄文文化のはじまり・おわり・ひろがり
	④ 定住生活の意義
	⑤ 縄文文化の地域性
	⑥ 民族誌からみた縄文文化
2 定住生活の進展	⑦ 計画的な食料の調達
	⑧ 高度な植物利用技術
	⑨ 高度な動物利用技術の発達
	⑩ 計画的な土地利用
	⑪ 交易・交流ネットワークの発達
	⑫ 各地の集落と社会
3 縄文の家族と社会	⑬ 縄文人の一生
	⑭ 当時の家族像
	⑮ 特別な人々の出現
4 縄文人の「おそれ」・「いのり」・「まつり」	⑯ けが・病気と災害
	(1) 災害への対応
	(2) 縄文人のけが・病気
	⑰ 縄文人の死生観
	⑱ 再生・循環の「いのり」と「まつり」
	⑲ 縄文人の祖霊祭祀
5 東アジアの中の縄文文化	⑳ 大陸との接触

**III 弥生文化誕生**

[コラム] れきはくサイエンス・ラボ	弥生期の環境変動
	圧痕から復元した動植物
1 東北アジアの文明化と朝鮮半島	① 朝鮮半島の農耕社会化
	② 縄文後・晩期
	③ 列島各地の初期水稲農耕
2 農耕社会の成立	④ 列島の鉄器文化
	⑤ 武器と戦い
3 西と東のまつり	⑥ 西のまつり
	⑦ 東のまつり
4 弥生のくらし	⑧ 弥生のむら
	⑨ 弥生の墓
	⑩ 弥生の自画像
[コラム] 弥生 VS 縄文	弥生 VS 縄文
5 4つの文化へ	⑪ 北縁、南縁の水田稲作文化
	⑫ 北の文化、南の文化
	⑬ 弥生文化とはなにか

#### IV 倭の登場

1 東夷世界へのまなざし	① 漢と倭
	② 魏志倭人伝の航海記録
2 1～2世紀の東アジア	③ 中国王朝の世界—漢—
	④ 朝鮮半島の世界—楽浪と三韓—
	⑤ 南北市羅の世界—壹岐・対馬—
	⑥ 金印かがやく世界—九州北部—
	⑦ 東西海廊の世界—日本海—
	⑧ しまなみの世界—瀬戸内海—
	⑨ 平野ひろがる世界—近畿—
	⑩ やまなみの世界—東海・中部・関東—
3 倭王への道	⑪ 倭王への道

#### V 倭の前方後円墳と東アジア

1 前方後円墳と倭王権	① 前期の古墳
	② 中期の古墳
	③ 後期の古墳
2 地域社会の景観	④ 王をめぐる風景
	⑤ 集落での生活
	⑥ 時代を変える新たな技術
3 倭の境界と周縁	⑦ 倭の北縁と北方世界
	⑧ 倭の南縁と南方世界
	⑨ 朝鮮半島の倭系古墳
4 境界を越えて—アジアという世界—	⑩ アジアの王権
	⑪ 王権の天下観

#### VI 古代国家と列島世界

1 自然環境と災害	① 自然環境
	② 災害
2 倭国から日本へ	③ 仏教伝来と古墳の終末
	④ 飛鳥と難波、藤原京
	⑤ 「日本」建設
3 律令支配と列島世界	⑥ 都の明と暗
	⑦ 古代の集落と役所
	⑧ 古代国家の北と南
	⑨ 東アジアのなかの列島世界
4 中世の胎動	⑩ 中世の胎動

#### 副室1 沖ノ島・特集展示

1 沖ノ島の航路と祭祀
2 祭祀の変遷
3 沖ノ島からみた国際交流
4 先史・古代の国際交流
特集展示

#### 副室2 正倉院文書

1 役人の生活	① 写経生の生活
	② 役人の生活
2 正倉院文書の世界	③ 公文書の世界
正倉院模型	④ 写経所文書の世界
正倉院文書特集展示	

## 2016年度後半—グラフィックパネルの素材収集、ガイダンス映像の制作、寄附金募集

前半に引き続き展示業者との打ち合わせをテーマ別に重ね、テーマサインやグラフィックパネルのデザイン、新規演示具、展示室での工事等について検討し制作準備を進めた。具体的にはテーマ解説文の執筆とテーマ間での調整、使用画像や図版の確定・提供を行った。

前年度に先送りを決定したデジタルコンテンツのソフトのうち、ガイダンス映像を今年度中に制作することが館内委員会議で了承された。制作業者との間で実施設計図をもとに打ち合わせを行い、3月末に納品した。

その他の先送り項目を実施するために寄附金を募ることを館内委員会議で決定し、募集チラシのデザインや寄附の特典等について検討した。歴博で同時に進んでいた寄附募集プロジェクトとの調整をふまえ、3月には募集要項およびチラシのデザインを確定した。

展示資料に関しては、2016年度も引き続き複製資料や模型の制作(図2)、新しく借用する資料の調査を行った。また、一部の長期借用資料を所蔵機関に返却した。

### 【第1室リニューアル委員会】

全体会議 今年度は開催なし  
館内委員会議 表2参照

### 【展示工事打ち合わせ】

全体打ち合わせ・テーマ別打ち合わせ 表2参照

表2 リニューアルに関する打ち合わせ等開催日

年	月	日	内容	テーマ	主な議事等
2016	4	18	リニューアル運営会議	—	予算削減に伴う設計の一部実施取りやめ・先送り
		25	館内委員会議	—	資料撤収、設計、予算、閉室時対応
	5	9	閉室	—	
		30	館内委員会議	—	撤収後のスケジュール、借用資料、大型模型、デジタルコンテンツ
5/16～	6/2	撤収	—		
		6	15 撤収(大型資料)	—	
	7	27	館内委員会議	—	予算、大型模型、グラフィックパネル原稿
		25	館内委員会議	—	グラフィックパネル
	7	29	工事業者確定	—	株式会社乃村工藝社
		8	23 展示工事打合せ	II	展示概要等のヒアリング、工期の説明
	8	24	展示工事打合せ	I	展示概要等のヒアリング、工期の説明
				III	展示概要等のヒアリング、工期の説明
		31	展示工事打合せ	副(沖) 副(正)	展示概要等のヒアリング、工期の説明
	9	5	展示工事打合せ	IV	展示概要等のヒアリング、工期の説明
			館内委員会議	—	予算、スケジュール、資料実測、大型模型、大テーマ解説文原稿、閉室中の対応
		7	撤収(大型資料)	—	
		13	展示工事打合せ	V	展示概要等のヒアリング、工期の説明
		14	展示工事打合せ	VI	展示概要等のヒアリング、工期の説明
		26	館内委員会議	—	演示具、グラフィックパネル素材、閉室中の対応、開室前の新展示資料の取り扱い
		27	撤収(大型資料)	—	

	10	5 展示工事打合せ	Ⅲ	グラフィックパネル
		12 展示工事打合せ	Ⅵ	グラフィックパネル
		19 展示工事打合せ	Ⅱ	グラフィックパネル
		20 展示工事打合せ	Ⅰ	グラフィックパネル
		24 館内委員会議	—	ガイダンス映像, 大テーマ解説文原稿, 新展示資料写真の取り扱い
		25 展示工事打合せ	Ⅴ	グラフィックパネル
		26 展示工事打合せ	Ⅳ	グラフィックパネル
	11	17 展示工事打合せ	—	大テーマサインのデザイン
			Ⅲ	グラフィックパネル
		21 展示工事打合せ	Ⅵ	グラフィックパネル
		28 館内委員会議	—	大テーマサインのデザイン, グラフィックパネル, 寄附金募集
		展示工事打合せ	Ⅱ	グラフィックパネル
		29 展示工事打合せ	Ⅰ	グラフィックパネル
	12	7 展示工事打合せ	Ⅴ	グラフィックパネル
		26 館内委員会議	—	寄附金募集, ガイダンス映像, 中テーマ解説文原稿
2017	1	19 展示工事打合せ	Ⅲ	グラフィックパネル
			Ⅱ	グラフィックパネル
		25 展示工事打合せ	Ⅳ	グラフィックパネル
			Ⅴ	グラフィックパネル
	30 館内委員会議	—	予算, 寄附金募集, ガイダンス映像, 中テーマ解説文原稿, 大テーマサインのデザイン	
	2	1 展示工事打合せ	副(沖)	模型移設案変更
		27 館内委員会議	—	寄附金募集, 中テーマ解説文原稿, 大テーマサインのデザイン
	3	6 展示工事打合せ	Ⅳ	グラフィックパネル
			Ⅴ	グラフィックパネル
		9 展示工事打合せ	Ⅱ	グラフィックパネル
		17 展示工事打合せ	Ⅵ	グラフィックパネル
		21 展示工事打合せ	Ⅰ	グラフィックパネル
		23 展示工事打合せ	Ⅲ	グラフィックパネル
		27 館内委員会議	—	スケジュールと作業分担, 寄附金募集
		28~30 撤収(大型資料)	—	

### 3. 資料制作活動の概要

#### 1) 制作資料

これまでの資料制作活動に続き〔渋谷・大塚 2015, 渋谷・上 2016, 渋谷・上 2017〕, 現状と復元を含めた複製資料や模型の制作・改修を進めている。ここでは昨年度分制作資料のうち, 大テーマⅠで展示予定のナウマンゾウの生体復元模型を取り上げ, 事前調査結果や制作工程を報告したい。

#### 2) ナウマンゾウ模型の制作

##### 資料の概要

大テーマⅠ「最終氷期に生きた人々」, 中テーマⅠ「最終氷期の森」の展示コーナー(表1)では, 日本列島にヒトが到達する直前の後期更新世末期の環境を復元する。当時生息していた動植物を再現し, ナウマンゾウの生体復元模型もこの中に配置する予定である。同模型は, 来館者が第1展示室に足を運んだ際に最初に目にする展示資料となる。人文系博物館でありながらほぼ実寸の自然系資料を配置することで来館者に同模型を強く印象づけ, 当時の冷涼な気候と現在とは異なる動植物

相についての理解を促す。

ナウマンゾウ *Palaeoloxodon naumanni* は絶滅種のゾウの一種である。国内の化石長鼻類の研究は、明治初期に見つかった同種化石をエドムント・ナウマン（東京帝国大学）が報告し（Naumann 1881）、槇山次郎（京都帝国大学）がナウマンゾウ *Elephas namadicus naumanni* と名付けて以降（Makiyama 1924）、本格的に始まった。同種はユーラシアから渡来した周口店動物群に属し、日本列島内では約 35 万～1.7 万年前まで生息していたことが確認されている [奥村ほか 1982, 樽野・亀井 1993, 近藤 2006, 高橋 2013]。詳細な生態や絶滅理由は明らかではないものの、同種化石は日本列島だけで 500 か所以上の地点で産出し [長谷川ほか 2015]、平野や丘陵地に偏在する一方で 1000m を超える高地でも確認されている [長谷川 1991, 亀井編著 1991, 樽 2007]。近年の研究成果では、同種が温帯の落葉広葉樹林に生息し、気候変動に対し分布域を変化させてきたことが明らかとなり [Takahashi *et al.* 2001, 2004, 近藤 同掲]、この日本列島での広範囲にわたる分布についても、列島内での移動の結果と捉えることができそうである。

模型制作は、工藤雄一郎博士（本館・准教授）の主導の下、長谷川善和博士（群馬県立自然史博物館・名誉館長）と国府田良樹博士（茨城県自然博物館・主任研究員（当時）、神栖市歴史民俗資料館・学芸指導員（現在））に監修して頂き進めた。展示予定のナウマンゾウ模型は FRP 樹脂製で、従来通りの原形模型から型を起こして樹脂を流し込み成形という工程を辿っている。制作に先立って、復元の根拠となる化石資料や現生ゾウに関する資料調査の他、① ナウマンゾウの生体模型復元例、② 配置とポーズ、③ サイズと外形、体色、体毛などについて検討した。以下では、各検討結果と模型制作の工程について述べる。

## 制作前の諸検討

### ① ナウマンゾウの生体模型復元例

国内の生体復元模型の制作例 [亀井 2000, 犬塚 1999] を調査したところ、既に指摘されるように、ナウマンゾウの骨格の特徴は大きな牙と頭骨の鉢巻き状突起にあり、国内各地の博物館や研究施設で展示・所蔵される生体復元模型の頭部や牙の形状には広く共通点が認められた。しかしながら、胴部の形態や耳の大きさ、体毛の状態などは監修者によって大きく異なり、特に背部の形態についてはアジアゾウを参考に復元したものとアフリカゾウを参考にしたものとは大別される。周知のように、前者をモデルにしたものは脊柱が中央部 1 か所のみ湾曲し腰に向かって低くなるが、後者モデルは脊柱が肩と腰 2 か所で湾曲しており腰もそれほど低くならない。耳の形や大きさについても、前者を参考にしたのは四角形で小さいが後者を参考にしたのは三角形で大きい。体毛についても、南方系動物群の同種の、その後の寒冷気候への適応度合いの評価によって密度や毛足の長さが異なってきている。

### ② 配置とポーズ

検討の結果、氷期の森の中から川辺にナウマンゾウが現れて水を飲むシーンを設定し、川の水を吸い上げて鼻を丸め口元へ運び、水を飲もうとする瞬間を表現することにした。鼻を丸めて鼻先を口元へ寄せるポーズは、鼻や牙が観覧者の手に触れないよう留意することに加え、根拠に乏しく未

だ明らかでない鼻先の形態や鼻の長さの明示を回避する意図も含まれる。

### ③ サイズと外形, 体色, 体毛など

生体復元に先立って, 両監修者によって化石標本の選定と骨格の復元が行われた。頭部については1971年に千葉県成田市下総滑川駅付近に所在する露頭からはほぼ完存の状態で産出した成獣オスの頭骨標本と, 上野駅周辺の地下鉄工事の際に見つかった成獣オスの牙標本(未発表), 1921年静岡県浜松市西区佐浜町産出の下顎骨標本に基づき復元されている。四肢及び胴部については, 1975年と1980年に神奈川県藤沢市天岳院下で産出した成獣オスの四肢・胴部骨や, 1966年に千葉県印旛郡印旛村瀬戸で産出したオスの成獣の胴部骨などに基づき肩高を約2.7mと設定したものの, 展示予定個所の空間に合わせ若干小さめに設計することになり, 牙の先端までの高さを約3.5mとした。体躯については, 野生ゾウを参考に痩せ気味にしている。

外形については, アフリカゾウの一種であるマルミミゾウ(シンリンゾウ) *Loxodonta cyclotis* を参考に耳の大きさや形を検討し, やや大きめで丸みを帯びた三角形にした。体色についても同種の野生ゾウを参照し, 全体的にやや暗めの灰色にした。また, 足元が泥で汚れている様子も表現している。体毛については, ナウマンゾウがケナガマンモス *Mammuthus primigenius* とは異なり南方系のゾウであることを考慮し, あまり密集させず毛足もそれほど長くしていない。また, 模型はFRP樹脂製であるため, 植毛によってではなく原型模型段階に施す彫刻によって体毛を表現することにした。ただし, 尻尾については, 極細の針金を用いて毛足の長さを表すことにしている。

### 模型の制作工程

前述の通り, 模型はFRP樹脂製であり, おおまかな工程は, まず1/10スケールのスタディモデルを制作し, これを基に実寸の原形模型を制作した後, この原形から型を起こしFRP樹脂で成形, 彩色を施し完成に至る。以下では詳細な工程を述べたい。

前項の検討結果に基づき, 前年度前半期より模型制作を開始した。まず, 実施設計図を基に実物の1/10スケールの簡易模型を制作し, ポーズや来館者との距離や見え方を検討し, 模型の配置個所や向きなどを調整した。

次いで, 1/10スケールのスタディモデルを作成した。粘土製の原形模型の段階で頭部や背を中心に細部にわたって修正を加え(図3:1)原形を完成させた後(図3:2), この原形模型から型を起こし, FRP樹脂で成形している。

更に, このスタディモデルを分割し(図3:3), これを基に10倍にした発泡スチロール製パーツを組み立て, 原寸の原形模型を制作する(図3:4)。こちらの原形模型にも, 腹部周辺を削りこみ, 足も細めに改変するなどの修正を加え, 肉付きや外部形態を変えた(図3:5)。耳もマルミミゾウを参考に形態を整えて, 血管が浮き出て躍動感のある様子に変わった。同時に体毛についても彫刻を加えることで表現している(図3:6)。

最後に, この原寸の原形模型を型取りし, FRP樹脂製模型が成形されている。この段階で模型全体に彩色が施され(図3:7), 口元から水が零れる表現や, 野生ゾウを参考に煤けた風合いも加わり完成に至っている(図3:8)。

#### 4. 展示プロジェクト委員

当該委員は表3に示した通りである。館外および館内委員で構成されている(所属と役職は2017年4月時点のもの)。

表3 第1室リニューアル展示プロジェクト委員

館内委員			館外委員		
上野 祥史	本館研究部	准教授	小畑 弘己	熊本大学文学部	教授
小倉 慈司	本館研究部	准教授	亀田 修一	岡山理科大学総合情報学部	教授
工藤 雄一郎	本館研究部	准教授	川尻 秋生	早稲田大学文学学術院	教授
鈴木 卓治	本館研究部	准教授	設楽 博己	東京大学文学部・ 大学院人文社会系研究科	教授
高田 貫太	本館研究部	准教授	瀬口 眞司	公益財団法人滋賀県文化財保護協会 企画調査課	副主幹
西谷 大	本館研究部	教授	谷口 康浩	國學院大學大学院文学研究科	教授
仁藤 敦史	本館研究部	教授	堤 隆	浅間縄文ミュージアム	主任学芸員
林部 均	本館研究部	教授	菱田 哲郎	京都府立大学文学部	教授
藤尾 慎一郎	本館研究部	教授 (代表)	森 公章	東洋大学文学部	教授
松木 武彦	本館研究部	教授 (副代表)	吉田 広	愛媛大学ミュージアム	准教授
三上 喜孝	本館研究部	准教授	若狭 徹	明治大学文学部	准教授
村木 二郎	本館研究部	准教授	若林 邦彦	同志社大学歴史資料館	准教授
山田 康弘	本館研究部	教授			

#### おわりに

第1室リニューアルは、2016年5月上旬に第1展示室を閉室し、約2年半後となる2019年3月の開室を目指して準備を進めている。2016年8月には施工担当が乃村工芸社に確定し、前年度に納品された実施設計図に基づき、資料の演示方法やサイングラフィック・解説パネル・ガイダンス映像のデザイン設計を中心に検討を重ね制作準備を進めており、必要に応じて変更を行ってきている。これらの変更については、来年度秋に予定される展示リニューアル委員会の全体会議で承認を得た上で、制作を実施する予定である。

2017年度には引き続き資料制作を予定している他、演示具の制作やサイングラフィック、解説パネルなどの制作に加え、他館所蔵の展示予定資料についての借用交渉なども進めていく予定である。その活動内容については今後も報告していきたい。

#### 謝辞

ナウマンゾウ模型制作に当たって、以下の方々にご指導を賜り、資料や文献等をご教示頂きました。末筆ながら記して深く感謝申し上げます(敬称略・五十音順)。

工藤雄一郎、国府田良樹、甲能直樹、佐藤タクヤ、根本真吾、長谷川善和、春成秀爾

---

引用文献

---

- 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館, 2004. 国立歴史民俗博物館総合展示リニューアル基本計画: 59. 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館, 千葉.
- 長谷川善和, 1991. ナウマンゾウ [Naumann's elephants]. 古生物学事典 (日本古生物学会編): 240-241.
- 長谷川善和・国府田良樹・鈴木久仁博・飯泉克典・加藤太一・利光誠一・中島 礼・兼子尚知・安藤寿男, 2015. 茨城県下のナウマンゾウ化石. 日本古生物学会年会講演予稿集: 37.
- 犬塚則久, 1999. ナウマンゾウの研究と田端標本再考. 北区飛鳥山博物館研究報告, 1: 1-40.
- 亀井節夫 (編著), 1991. 日本の長鼻類化石. 築地書館, 東京.
- 亀井節夫, 2000. 「日本の長鼻類化石」とそれ以後. 地球科学, 54: 211-230.
- 近藤洋一, 2006. 日本を代表するゾウ化石 ナウマンゾウ. 化石, 79: 81-87.
- Makiyama, J., 1924. Notes on a fossil elephant from Sahamma, Totomi. *Memoirs of the College of Science, Kyoto Imperial University*, B 1-2: 255-264.
- Naumann, E., 1881. Ueber japanische Elephanten der Vorzeit. *Palaeontographica*, 28
- 奥村 潔・石田 克・河村 善也・熊田 満・田宮 須賀子, 1982. 岐阜県熊石洞産後期洪積世哺乳動物群とその<sup>14</sup>C年代の意義. 地球科学, 36-4: 214-218.
- 渋谷綾子, 2014. 国立歴史民俗博物館総合展示第1室 (原始・古代) の新構築事業—2012年度活動報告. 国立歴史民俗博物館研究報告, 186: 277-293.
- 渋谷綾子・大塚義昭, 2015. 国立歴史民俗博物館総合展示第1室 (原始・古代) の新構築事業—2013年度活動報告—. 国立歴史民俗博物館研究報告, 195: 111-122.
- 渋谷綾子・上奈穂美, 2016. 国立歴史民俗博物館総合展示第1室 (原始・古代) の新構築事業—2014年度活動報告—. 国立歴史民俗博物館研究報告, 201: 25-40.
- 渋谷綾子・上奈穂美, 2017. 国立歴史民俗博物館総合展示第1室 (原始・古代) の新構築事業—2015年度活動報告—. 国立歴史民俗博物館研究報告, 206: 115-125.
- 高橋啓一, 2013. 日本のゾウ化石, その起源と移り変わり. 豊橋市自然史博物館研報, 23: 65-73.
- Takahashi, K., Chang, C.H., Cheng, Y.N., 2001. Proboscidean fossils from the Japanese Archipelago and Taiwan Islands and their relationship with the Chinese mainland. *The World of Elephants - International Congress*, 148-151.
- Takahashi, K., Soeda, Y., Izuhō, M., Aoki, K., Yamada, G., Akamatsu, M. 2004. A New Specimen of *Palaeoloxodon naumanni* from Hokkaido and its Significance, 第四紀研究, 43-3: 169-180.
- 樽 創, 2007. 読みもの ナウマンゾウがいた!. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 神奈川.
- 樽野博幸・亀井節夫, 1993. 近畿地方の鮮新・更新統の脊椎動物化石. (市原 実 編著), 大阪層群: 216-231, 創元社

上 奈穂美 (国立歴史民俗博物館・技術補佐員)

横田あゆみ (国立歴史民俗博物館・資料整理等補助員)

(2017年2月28日受付, 2017年10月10日審査終了)



撤収の様子



旧展示の記録



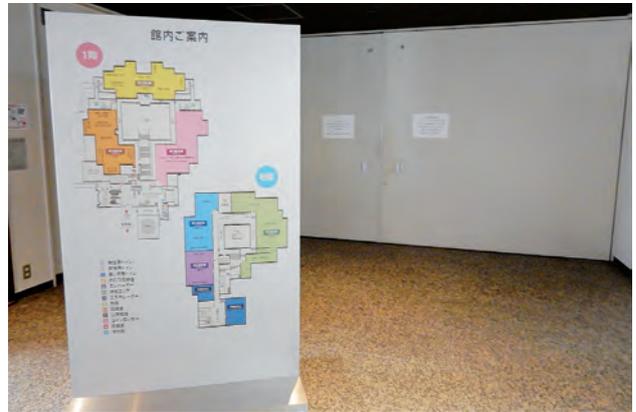
複製資料の納品検査(1)



複製資料の納品検査(2)



標本の収穫



現在の第1室入口



第2室への迂回路



現在の第1室出口

図2 2016年度作業風景ほか



1 スタディモデルの修正



2 スタディモデルの完成



3 スタディモデルの分割



4 原形模型の制作



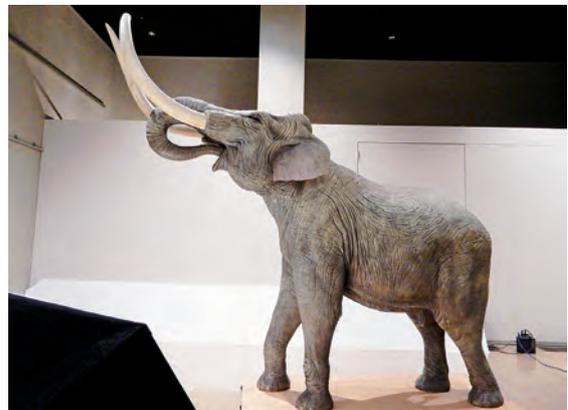
5 原形模型の修正 (1)



6 原形模型の修正 (2)



7 完成模型 (1)



8 完成模型 (2)

図3 ナウマンゾウ模型の制作風景